

平成30年度 県立土浦第一高等学校(全日制) 自己評価表

No. 1

目指す学校像	豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、次代をリードする高い知性とたくましい心身を有し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。 教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<p>高い「志」の実現をめざし、授業第一主義による質の高い授業や主体的学習態度の育成、生徒一人一人の進路実現への取り組みにより、難関大学や医学部等への合格者数のより一層の増加を目指す。</p> <p>多くの生徒が部活動や委員会活動等に積極的に参加したり、生徒自ら学校説明会を行うなど広報活動にも意欲的に取り組むことができた。</p> <p>文科省指定のSGH事業は、海外フィールドワーク等の課題研究活動や発表会の内容等において成果をあげており、完成年度として取り組みの充実を図る。さらに、事業終了後の継続的内容についても具体的方策を検討していく。</p> <p>過去最高の倍率を記録した3年前より志願倍率は下がっており、さらなる積極的な情報発信をすることにより、本校の魅力を的確に伝えていく継続的な取り組みが必要である。</p>	主体的学習態度の育成と質の高い授業の展開	①授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。 ②自ら学ぶ意欲を高めるとともに、効果的な学習活動を支援する。 ③指導法の研究を通年でを行い、授業改善、指導力向上を図りながら、生徒の能力を高める授業を展開する。	A		
	豊かな人間性の涵養	④基本的生活習慣の確立に努めると共に、部活動や委員会活動等への積極的な参加を促し、豊かな人間性の涵養と社会性の養成に努める。 ⑤いじめのない、他者を思いやる心の育成によって、豊かな人間関係づくりを図る。 ⑥個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや課題の解決に向け支援する。	A		
	高い「志」実現に向けたキャリア教育の充実	⑦高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ⑧生徒の自己理解を促し、高い目標設定と自己実現を目指す継続的な努力ができるよう、個別面談の充実を図る。 ⑨将来において、各界でのリーダーをめざすべく、個人の可能性を伸ばすことができるように支援する。	A		
	グローバル人材の育成	⑩文部科学省指定のSGH活動を通して、課題研究などの探究活動を推進する。 ⑪世界に通用する人材を育成できるよう、課題解決能力やコミュニケーション能力、英語力の向上を図る。	A		
	学校情報の積極的発信と地域との連携	⑫学校の情報を積極的に発信するために、学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑬地域とのコミュニケーションやふれあいを大切に、小中学校や町内会等と交流を図る。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度学期への主な課題	
教務部	より深く考える力を育てる授業を展開するための支援を充実させる。	授業時間の確保のため、授業補填率100%を本年も継続させ、日々の時間割を円滑に運営する。 ①	A	A	新テスト、次期学習指導要領については、引き続き情報収集を行う。不安に思う保護者も多いので、情報の提示の機会を増やしていく。60分授業実施1年目ということで、課題をあげてもらい、改善に努めていきたい。広報活動をさらに強力にし、魅力度の発信をどんどん行いたい。
		学校行事等を効果的・計画的に実施することで、生徒が意欲的に授業に取り組む環境をつくる。 ②	A		
		定期考査や実力考査、及び校内模試の問題検討会の実施を推進する。 ③	A		
		授業の相互参観を定常化させ、授業改善、指導力向上の研修機会を増やす。 ③	B		
	次期教育課程と「新テスト」への対応を進める。	次期教育課程を踏まえ、生徒の能動的な学習活動の促進に向け、研究を進める。 ①②③	B		
		「新テスト」への対応に向けて、将来の本校教育課程の検討を始める。 ②③	B		
	SGHの成果を踏まえた平成31年度教育課程を作成する。 ①②③	B			
広報活動の充実を通し、教育活動の活性化を図る。	中学生に加え、小学生や地域社会に対しても本校をアピールする機会を推進する。 ⑫⑬	A			
	SGHの取組も含め、本校の教育活動の姿をホームページなどを通して公開する。 ⑩⑪⑫	A			
学習館の利用を促進する。	年間の使用予定を調整し、学習館の利用を効率的に行う。 ②	A			
	学年や校務分掌と連携し、学習活動等に活用しやすい環境を整える。 ①②	A			
	各学年後援会の活性化と、連携・協体制の充実を努める。 ⑫	A			
渉外部	学校、家庭、地域社会との連携と協体制の確立に努める。	各種PTA行事(後援会行事)への積極的な協力・参加を呼びかける。 ⑫⑬	A	B	各種PTA行事への積極的な参加・協力を呼びかけ、特にPTA総会の出席者数の増加を図る。
		PTA総会の出席者数の増加を図る。 ⑫	B		
	奨学制度の効果的活用を図る。	各種奨学金の情報提供に努め、生徒が有効活用できるようにする。 ⑥	A		
人権教育室	学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。	人権感覚や人権意識を育み、人権擁護の意識を高める人権教育の実践を支援する。 ④⑤	A	A	HRや道徳の時間に教師が利用しやすく、かつ人権教育上、意義のある実践例や指導案等の資料の研究、充実を図る。
	人権尊重の精神の涵養と民主的な人間関係を育成する。	教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒に人権感覚や人権意識を育成するために必要な総合的資質・能力を高めることを目的とした職員研修を企画、実行する。 ④⑤⑥	A		
		HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。 ④	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒指導部	基本的な生活習慣を確立させる。生徒自らが規律を守り、節度ある生活をしようとする態度を育成する。	挨拶の励行や制服の着こなし等の指導を通して規範意識の高揚に努める。 ⑦	A	B ・登下校時の立哨指導・交通マナーに関する指導を通して安全への意識を高めるとともに、地域社会の一員としての自覚を持たせる。 ・自教室及び私物の管理を徹底させ、生徒1人1人に安心・安全な学校作りに参画する意欲と自覚を持たせる。 ・生徒同士・教員同士の情報交換を密にし、円滑な行事運営に努める。
		交通ルールの遵守を徹底させるとともに交通事故の防止に努める。 ⑩	B	
		登校時における昇降口での生活指導、校外での交通安全立哨指導等を全職員が分担して定期的実施する。 ⑦⑩	A	
		携帯電話・スマートフォンやインターネットの適切な利用を指導する。 ⑩	A	
		マナーアップ運動等を推進する。 ⑦⑩	A	
	生徒の実態をよく把握し、充実した学校生活を送れるように支援する。	生徒の実態を把握し、学年等との連携を密にする。 ⑥⑧	A	
		いじめに関するアンケート調査等を実施し、本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見、早期解消のために学校全体として一致協力して取り組む。 ⑦⑧	B	
		生徒会を中心に、学校生活の改善・向上や充実を目指した生徒の主体的活動を支援する。 ⑥⑨	B	
		各種委員会活動の活性化を図る。 ⑥⑨	A	
生徒の発達段階に応じた望ましい集団活動の意義の明確化と自発的な活動の充実に努める。	生徒自らが企画・運営する学校行事への支援を工夫し、生徒の発想や創意を活かす。 ⑥⑨	A		
	運動部・文化部等の積極的・自主的活動を奨励するとともに、学習と両立させるようにする。 ⑨⑩	A		
教育相談室	教育相談体制を確立する。	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。 ⑥⑫	A	A ・ホームページ等も活用し、相談室の広報に努める。 ・生徒の支援に生かすべく研修を積む。
		各学年や各校務分掌と連携し、学校への不適応が見られる生徒の支援にあたる。 ⑤⑧	A	
		教員のスキルアップを図るため、スクールカウンセラーを活用した研修会を学年ごとに開く。 ⑥	B	
保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し、生活環境が衛生的に保たれるよう分担区清掃を責任もってをあたらせる。 ④⑨	A	A ・教室を中心とした校内の生活環境整備に努める。 ・災害発生時対応マニュアルを見直し、避難所運営の方法についても検討する。
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ⑨⑩	A	
		周辺住民も参加した避難訓練を実施し、地域と連携した防災力の向上に努める。 ⑫⑬	A	
	生徒の健康管理を支援する。	検診機関等が行う活動の準備、実施、事後措置に対し協力、指導する。 ⑥	A	
	自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、将来の実りある自己実現に向け、性教育に関する保健指導を実施する。 ⑤⑥	A		
進路指導部	学習指導を支援する。	効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握、担任を支援する。 ①②③	A	A ・教科内の作問などの検討をさらに充実させるように促す。 ・図書をさらに充実するように努める。 ・生徒と保護者が進路について共通認識を持てるように、そのために必要な資料等を提供する。
		生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が外部の研究會に積極的に参加するように促す。また教科内の作問などの検討を促す。 ③	A	
		将来の生き方や生活、進路や職業について考えさせる学年ごとの行事への積極的な支援をする。 ④⑤⑧	A	
	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の充実を努める。 ④⑤	B	
		進路情報交換会を開き、課題の発見とその解決に努め、教職員集団として共通理解を持った進路指導ができるようにする。そのため進路指導部内のシステム化を図り、学年との連携を密にする。 ②③⑤	A	
	適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	生徒が志望校を考える資料として、進学要覧・合格体験記を作成し、生徒に配布する。 ④⑤	A	
		4月の学年後援会総会、7・12月の保護者面談の際、学年に応じた適切な進路情報を提供する。 ⑤	A	
	必要に応じて進路通信を発行したり、外部からの資料を配付し、生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるように支援する。 ⑤	A		
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に随時購入希望図書の調査をし、蔵書の充実を図る。 ①②③	B	B ・図書の配置・館内の装飾等をより工夫することで来館者の増加及び読書意欲の喚起を図る。 ・図書委員会活動の活性化を促し、校内外への情報発信及び図書館運営の円滑化を図る。
		蔵書の効率的利用と図書館内の安全確保のため引き続き蔵書の整理を進める。 ②	A	
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	来館した生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を継続して行う。 ②⑦⑨	B	
	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 ②④	B	
		課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。 ①②	A	
	生徒の自主学習を支援する場として、弾力的に図書館を開館する。 ①②	A		
情報室	情報教育の環境を整備する。	事務室・教科・学年と連携し、PC環境の整備に取り組む。情報セキュリティやウイルス対策等に対する意識を高める。突発的に起きるトラブル等に対しても対応出来るような用意しておく。 ②	A	B Windows7のサポート終了に対応しなければならない。故障等の老朽化が見られる個体も出てきており、PC環境の整備を引き続き行う必要がある。
	情報モラルに関する意識を高める。	授業などで情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。現在の情報技術を取り巻く社会環境についての具体的事例やその対処法等について指導する。 ①②④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
SGH 推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、ポストSGHを勘案しながら、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し、自ら考えさせる態度を育成する。②⑥⑨	A	A ・課題学習に対する各自の取り組みが向上し、5年間積み上げてきた成果が確実に表れている。 ・SGH5年間の取り組みを今後も継続させるため、探究学習を推進したい。
	人的ネットワークの構築を推進する。	ポストSGHを勘案しながら、起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。②④⑥⑨	A	
	コミュニケーション能力と情報伝達能力の向上を推進する。	将来グローバル社会で活躍するのに必要となる、国内外の社会・文化の諸問題の理解力を、外国人教師の授業等を通じて育成する。①②⑥⑨	A	
	幅広い視野を養う活動を推進する。	ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。①②	A	
	グローバル人材の育成を推進する。	ポストSGHを勘案しながら、文化講演会、企業・研究所訪問、OBOGガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。②④⑥⑨	A	
日本館 学習館 統括室	自習場所として活用する。	清潔な環境を保つよう心がけ、使いやすい環境を整える。②	A	A 地域の方々の日本館利用が実質的に始まることで生じる様々な問題点に対応すること。
	各種行事に活用する。	学校・学年行事等の年間の使用予定を把握調整し、学習館の利用を効率的に行う。②④	A	
	日本館の活用を図る。	平日の学習や特別活動等の利用について検討する。②④	A	
第1学年	受け身型の学習を脱し、自立探究型の学習姿勢を確立する。	学校休業日において、地域との交流のための利用について検討していく。⑬	A	A 学校行事を牽引していく立場として、よりリーダーシップを発揮し、主体的な行動を取れるよう促す。また、学習面においては、自分に限界を作らず、困難に立ち向かう強い気持ちと高い進路意識を養成する。
	高い目標を設定し、それに向けて自らを律し努力する姿勢を養う。	生徒を主体的に参加させる授業を展開し、自ら取り組み考える姿勢を培う。①②③	A	
	学校の活動に主体的に参加し、集団に貢献する人間性を培う。	授業や面談を通じ、予習を中心とした家庭学習の習慣を確立させる。①②⑧	A	
	教養主義を掲げ、自立探求型学習の深化を図り、目標は高く継続的に取り組む。	SGH事業を通じ、自らのアイデアと方法で探究する学びの姿勢を養う。②⑥⑨	A	
	諸行事や課外活動に積極的に参加し、人間性とリーダーとしての資質を育む。	企業訪問やOB・OGガイダンスなどを通じ、大学や職業への関心を喚起する。④⑤	A	
第2学年	高い目標を掲げ、実現のための生活を徹底する。	ホームルームや面談を通じて自らの課題を意識させ、高い進路目標を設定するように促す。④⑤⑥	A	A ・2年 生徒自ら目標を定め、それに向かって自発的な学習を継続して実行できるように支援を行う。
	部活動、委員会活動で完全燃焼し、高い充実感を持って受験に切り替える。	容儀、挨拶、時間管理など日々の生活の中で高いレベルで自らを律する姿勢を養う。⑦⑧⑩	A	
	授業第一主義を貫き、学校中心の学習活動で大学受験	学校行事への企画・運営に参加させることで、学校への帰属意識を高める。⑨	A	
	生徒間のネットワークを、共に教え合う・啓発し合う関係に昇華し、受験に団体で臨む。	委員会や部・同好会の活動に積極的に参加させ、集団内でのリーダーシップを育成する。⑥⑦⑨	A	
	自らと「異なる」ものを積極的に取り入れ、自己の成長へとつなげる	クラスや組織・集団の活動の中で、周囲に配慮し進んで責任を引き受ける態度を培う。⑦⑨⑩	A	
第3学年	高い目標を掲げ、実現のための生活を徹底する。	学年行事をして、自分の進路適性を見つめ、早期の目標設定ができるよう働きかける。⑦⑧⑨	A	A ここまで部活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組ませてきた成果もあり、活気ある集団として受験期に入ることができた。特に、低学年時から意識してきた「生徒間のネットワーク」が、教え合う関係として機能し、センター試験前後の時期でも重苦しくなることなく励まし合って努力する学年の雰囲気構築ができた。
	部活動、委員会活動で完全燃焼し、高い充実感を持って受験に切り替える。	授業中心主義、多科目主義を堅持し、平日3時間休日5時間以上の家庭学習を継続させる。①②③	A	
	授業第一主義を貫き、学校中心の学習活動で大学受験	学習活動や行事において、生徒間のネットワークの活用を図る。⑩⑪	A	
	生徒間のネットワークを、共に教え合う・啓発し合う関係に昇華し、受験に団体で臨む。	部活動・各種委員会活動・三大大行事に全力で取り組み、リーダーシップを育成する。④⑨	A	
	自らと「異なる」ものを積極的に取り入れ、自己の成長へとつなげる	やれることは最大限生徒達自身の手で行わせ、自立した生徒を育てる。②⑨	A	
第3学年	高い目標を掲げ、実現のための生活を徹底する。	他者・集団の利益を考えさせ、生徒の責任感や客観性を育成する。⑤⑨	A	A ここまで部活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組ませてきた成果もあり、活気ある集団として受験期に入ることができた。特に、低学年時から意識してきた「生徒間のネットワーク」が、教え合う関係として機能し、センター試験前後の時期でも重苦しくなることなく励まし合って努力する学年の雰囲気構築ができた。
	部活動、委員会活動で完全燃焼し、高い充実感を持って受験に切り替える。	別クラス・団体に所属する生徒間の繋がりを作り、生徒間の交流の活性化を図る。④⑤⑥	B	
	授業第一主義を貫き、学校中心の学習活動で大学受験	担任面談だけでなく全ての学年担当者との関わりを通して、目標への挑戦を啓発する。⑥⑦⑧	B	
	生徒間のネットワークを、共に教え合う・啓発し合う関係に昇華し、受験に団体で臨む。	SNSに依存しない繋がりを促し、コミュニケーション能力を育てる。②⑤	A	
	自らと「異なる」ものを積極的に取り入れ、自己の成長へとつなげる	面談を通して、自分の進路適性を見つめ、早期の目標設定ができるよう働きかける。また、それらを通して高い志を持つ生徒を育てる。⑥⑦⑧	A	
第3学年	高い目標を掲げ、実現のための生活を徹底する。	集団内での「けじめ」と社会的なモラルを意識させ、自らを律する能力を育てる。特にスマートフォンの扱いに関するけじめを確立させる。②④⑤	B	A ここまで部活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組ませてきた成果もあり、活気ある集団として受験期に入ることができた。特に、低学年時から意識してきた「生徒間のネットワーク」が、教え合う関係として機能し、センター試験前後の時期でも重苦しくなることなく励まし合って努力する学年の雰囲気構築ができた。
	部活動、委員会活動で完全燃焼し、高い充実感を持って受験に切り替える。	部活動、一高祭に全力で取り組ませると共に、一高祭終了・部活動引退を機に、大幅な切り替えを促す。⑦⑧⑨	A	
	授業第一主義を貫き、学校中心の学習活動で大学受験	転換期に進路講演会、課外（東大研、医学研）を実施し、受験にしっかりと向き合わせる。②⑦⑧	A	
	生徒間のネットワークを、共に教え合う・啓発し合う関係に昇華し、受験に団体で臨む。	「授業は地元難関大レベル、課外は最難関大レベル」を徹底し、学校内の指導だけでも大学受験ができる学習環境を提供する。①②	A	
	自らと「異なる」ものを積極的に取り入れ、自己の成長へとつなげる	始業前や放課後の学習環境を整え、教室・学習館を学習の中心の場とするよう啓発する。①②	A	
第3学年	高い目標を掲げ、実現のための生活を徹底する。	授業、課外を通して、互いに教えあう場面を誘発する学習指導を行う。①②③	A	A ここまで部活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組ませてきた成果もあり、活気ある集団として受験期に入ることができた。特に、低学年時から意識してきた「生徒間のネットワーク」が、教え合う関係として機能し、センター試験前後の時期でも重苦しくなることなく励まし合って努力する学年の雰囲気構築ができた。
	部活動、委員会活動で完全燃焼し、高い充実感を持って受験に切り替える。	課外（東大研）を通して、クラスの枠を越えた生徒交流を図り、互いに啓発しあう関係を育む。②⑤⑨	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	基礎学力の確かな定着を図る。 探求型の学習スタイルを目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。 指導力の向上を図る。	授業計画を生徒に配布し、目的意識を持たせ、予習・復習等の学習をさせる。 ①②	A	A これからの入試制度で求められる資質・能力を鑑み、主体的・対話的な深い学びを実現すべく、適宜共同学習を取り入れ、教科指導を充実させたい。
		言語活動を積極的に取り入れ、全ての教科の基礎となる言語技術に関するメタ認知を高める。 ①②	A	
		個々の国語力の伸長を目指して、教科書以外にも課題を精選して与え、自学自習の習慣をつける。 ①②	A	
		生徒のニーズに合わせた特別講座や、学力不振の生徒に補講を行い、幅広い層の学力の向上を図る。 ①②	A	
		教科横断的な協同学習や表現活動を取り入れることで、国語力を総合的に伸ばす。 ①②	A	
		単元ごとの授業内容や、毎回の考查問題の協議を行い、的確な学力評価を行う。 ③	A	
地歴	世界史の学習を通して、国際社会における日本人のあり方を学び、社会貢献できる生徒の育成を図る。 我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い、歴史的思考力を培う。 現代世界で発生する種々の事象に対して、自ら考える姿勢を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。	世界史の通史だけでなく、テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な捉え方を身に付けさせる。 ①②	A	A ・日本や世界についての興味や関心を高め、理解を深めさせる。 ・授業や教材の創意工夫を続け、ALの手法等を取り入れつつ地理歴史に関する思考力を高める。 また、資料や史料から読みとる力の養成を続ける。 ・新学習指導要領への対応について準備を進める。
		世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより、我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。 ①②	A	
		世界史の基礎的な知識を身に付け、それをもとに自ら考える力を育成し、表現する力を養成する。 ①②③	A	
		各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点で考察させる。 ①②③	A	
		地域社会の歴史と文化を扱うことにより、郷土に対する関心を高め、愛する心を育てる。 ①②③	B	
		適切な主題を設定し、自らの考えを論述する活動を通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 ①②	A	
公民	国際人としての自覚を養い、倫理の諸問題に着目しながら課題解決できる姿勢と能力を養う。 政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、関心を持って眺める態度を育成する。	倫理で必要とされる基礎的知識を身に付け、それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。 ①②③	A	A ・中学校における既習事項との関連性を意識し、授業展開を考える。 ・テーマについて考え、発表や意見交換する場面をさらに充実させる。 ・新学習指導要領への対応について準備を進める。
		青年期における自己形成と人間としての在り方・生き方についての理解と思索を深めさせる。 ②④	A	
		民主主義の本質に関する理解を深め、現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらについて主体的に捉え、考えさせる。 ①②③	A	
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開する。	綿密な授業計画表を作成し、進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促すとともに、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。 ①②③	A	A ・授業を中心とした学習計画や予習復習の学習習慣を更に徹底させる。 ・新学習指導要領のもとでの指導法の研究を進める。 ・様々な学力層が混在しているので、学力層に合わせた指導を展開する。 ・大学入学共通テストの研究を進める。
		授業重視を徹底させる。日常の自己学習を徹底させる。 ①	A	
		授業中心の学習計画を立てさせ、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。 ①②③	B	
		科目担当者の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。 ①②	A	
		基本事項の理解を徹底させると共に、問題演習を十分に行う。 ①	B	
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。 ①②	A	
		3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格できるための思考力を養う。 ②	A	
進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。 ②③	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め、発展的な内容や話題について提供する。①②③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解に困難を生じている生徒に対する支援の具体的な方策を検討する必要がある。習熟度に応じた指導法のさらなる研究が必要である。 ・新学習指導要領および今後の新入試制度で求められる、資質・能力を育むために、教科指導の研究および充実を図りたい。 ・併せて、科学の甲子園や科学オリンピック出場生徒への指導の充実を図りたい。
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組み、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容のまとめ、考察、発表を通して学力の定着を図るとともに科学的な思考力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的内容に触れさせることで科学的探求心を育てる。①②	A	
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより、科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育み、科学的現象に対する学習意欲を高める。①②	A	
	基礎学力を充実させ、3年においては、特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。演習問題等を精選し、授業や添削指導などを通して、基礎学力を確実につける指導を行う。②③	B	
保健体育	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識を持たせるように指導する。	集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力・連携して活動すること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。①②③	A	体育 集団や種目の特性に応じて工夫しながらゲームを運営する能力を高める指導を工夫。用具の管理や安全への配慮ができる態度とリーダーシップの涵養。スモールステップで達成体験を積むことのできる指導の研究。思考力・対話力を高める場の工夫。事故を未然に防ぐために、生徒の危険予測能力の向上、危険箇所の早期改善、安全な体育施設の利用の促進。 保健 深い対話的学びが実践できる課題学習の学習方法や発表方法の研究。
		集団の特性に応じた、ゲームの工夫や技能を高める実践的能力や態度を育成する。⑦⑨	A	
		準備や片付けを率先して行う態度を養い、集団や社会に寄与する精神を育てる。⑦⑨	B	
		1学年の保健においては、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。③⑤⑨	A	
	運動の実践を通して、体力の向上、困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	2学年の保健においてはグループ研究・発表を実施し、共同で学習する事によって仲間意識や責任感を持たせるよう指導する。③⑤⑨	A	
		克服的な種目（水泳・長距離走）を実施することで、チャレンジ精神を養い、体力の向上や達成感を味わわせる。①②	A	
		苦手なことにも取り組みやすいように、工夫した指導を行い、関心・意欲・態度の評価を重視する。①②	A	
		個人スキル向上のためのドリルや発問を工夫し、発展したゲーム展開につなげる。①②	A	
	体育的行事を推進し、主体性や計画・実践する能力を高め、人間性を涵養する指導を行う。	体力テストを通して自己の体力を客観的に評価し、日頃から健康への意識を高め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。④⑦	A	
		一高オリンピックを生徒が主体的・計画的に行えるよう支援し、望ましい人間関係の形成や集団への所属意識や連帯感を深め、よりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。④⑨	A	
		運動部員が、クラスや行事においてもリーダーシップを発揮できるように、指導育成する。④⑨	A	
		活動中の健康観察を徹底する。①②	A	
運動・スポーツ活動における健康・安全指導を充実させる。	周囲の者の健康状態を観察したり、危険を察知する能力や態度を育成する。①②	A		
	健康、安全に関する自己管理能力を育成する。①②	A		
芸術	多様な表現活動を通して芸術表現・鑑賞の楽しさを味わわせ、芸術を愛好する心情を育てる。	生徒一人一人の感性に沿った個別指導を充実させる。①②⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相互鑑賞を更に工夫し、幅広い鑑賞指導の充実を図る。 ・表現や鑑賞教材を精選し、一人一人への指導に力を入れていきたい。
		生徒の実態に沿った課題選択をし、教材や授業内容及び指導方法を創意工夫する。②③	A	
		生徒自ら工夫した表現活動や相互鑑賞などにより、音楽の諸能力の向上を図る。①②	A	
		相互鑑賞をした上、自己の作品に関する発表することで鑑賞者に制作意図を理解させ、発表能力と鑑賞能力の向上を図る。①②	A	
家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	各分野の授業において、生徒が興味・関心を持ち取り組む実習を研究し、発展的な知識・内容についても提供し、①③	A	社会の流れに対応できる力を身に付け、今後の社会生活をより充実したものにするよう知識・技術の定着を図る。
		授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を主体的に解決する態度を育成する。①②⑨	A	
		技術の習得については、生徒一人一人の能力にあった個別指導を充実させる。②⑨	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題		
国際	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動を行うにあたり、ポストSGHを勘案しながら、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し、自ら考えさせる態度を育成する。②⑥⑨	A	A	5年間の「国際」の目標は一定の達成を見た。しかし、課題研究の活動は、単に研究成果をまとめればよいというものではない。研究という知的営みを通し思考力などの資質能力を向上させ、失敗したことをも学びにする貪欲さを養うことがさらに求められる。この高次の目標達成が今後の課題になると言えよう。	
	人的ネットワークを構築する力を養う。	ポストSGHを勘案しながら、起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。②④⑥⑨	A			
	英語力とICT技術を養う。	将来グローバル社会で活躍するために必要となる国内外の社会・文化の諸問題の理解力を、外国人教師の授業等を通じて育成する。①②⑥⑨	A			
		ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。①②	A			
	幅広い視野を養う。	ポストSGHを勘案しながら、文化講演会、企業・研究所訪問、OBOGガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。②④⑥⑨	A			
コミュニケーション能力を養う。	ポストSGHを勘案しながら、学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。②⑥⑦⑨	A				
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業を展開し、実践的コミュニケーション能力を養う。	全体		A	4技能のバランスを重視して、英語運用力の統合的かつ総合的な指導を行う。 ・1年 4技能の調和のとれた伸長を図り、自立した学習者への基礎を養う。 ・2年 生徒自ら目標を定め、それに向かって自発的な学習を継続して実行できるように支援を行う。 ・3年 生徒の進路実現のため、各レベルにおいてきめ細かい指導を目指す。特に全体を引っ張る上位層の意識向上を重視する。	
		・教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。①	A			
		・英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。①	A			
	・読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。①②③	A				
	第1学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	第1学年の具体的方策				
		・授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。①	A			
		・語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。①	A			
		・英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。①②	A			
	第2学年の目標 第1学年で培った英語の基礎力をさらに伸長させ、確かな英語力を養う。	第2学年の具体的方策	・辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。①②			A
			・授業内にディベート的要素を取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。①②③⑥			A
			・第1学年で培った生徒の英語力を踏まえて、一人一人の生徒の学力を伸ばす授業を展開する。①②			A
			・構文力を確かなものにするテストを継続実施する。①			A
			・正確でまとまりのある英文が書ける力を養えるような授業を展開する。①			A
	第3学年の目標 生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	第3学年の具体的方策	・英語による自己表現能力を育むことで、世界的な視野を持つ人材の育成を図る。①②③⑪			A
			・知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して、読解力の向上を図る。①②			A
・第1、2学年で培った英語力を踏まえ、生徒の英語力を確かなものにする授業を展開する。①②			A			
・大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考査を実施する。①②			A			
・国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の指導を充実させる。①	A					
・センター試験で各生徒の進路希望実現に必要な成果が出るように、直前対策を実施する。①	A					

5段階評価 A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった

